



E-mail: honbu@otedama.jp

● お問い合わせなどメールをご利用ください



http://www.otedama.jp

● たまちゃん通信はホームページに掲載

日本のお手玉の会本部

〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町10番1号



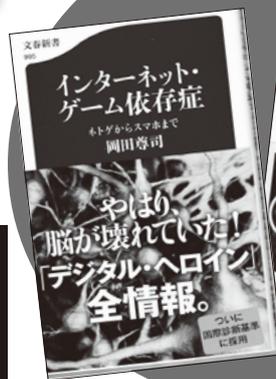
TEL : 0897-32-0302



FAX : 0897-32-0311

インターネット・ゲーム依存で 「脳が壊れる」

精神科医の岡田尊司医学博士が 警告をならす



精神科医の岡田尊司(おかだ・たかし)医学博士が、近著『インターネット・ゲーム依存症』～ネットゲからスマホまで～(文春新書)を出版しました。

その冒頭で、次のようにいっています。

「近年の研究の急速な進展によって、インターネット依存やゲーム依存、ことに、その両方の要素を合わせ持つインターネット・ゲーム依存症が、脳の機能のみならず器質的な変化をもたらしている可能性が強まっているのである。

これは文字通り『脳が壊れた』状態が引き起こされていることにほかならないだろう。十年前からくすぶり続けてきが疑惑は杞憂ではなかったことが、ようやく否定しようのない形で裏付けられているのだ。」

また、「覚せい剤依存と変わらない」の項では、次のように指摘しています。

「インターネットゲーム依存の深刻さを知る人は、『アルコールや薬物への依存と何ら変わらない』『覚せい剤依存と同じ』と断言する。インターネット・ゲーム依存の治療にかかわればかかわるほど、筆者自身もその感を強くする。

筆者は医療少年院で、覚せい剤依存のケースの治療にも数多く携わってきた経験があるが、インターネット・ゲーム依存の若者がとてもよく似た症候を示すのに驚かされる。どちらも過敏でイライラしやすく、不機嫌で、集中力が低下し、目はうつろである。

色は白く蒼ざめて、顔は伏せがちで、目を合わせようとしない。何も手につかず、以前はそれほど苦勞せずに来ていたことができない。無気力で、目の前のことには意欲がわかず、投げやりである」

そして、「インターネット・ゲーム依存症の人の脳内で起きていることは、覚醒剤依存症やコカイン依存症と、基本的に同じだったのである」とも言っています。

これらの指摘は、日本大学教授の森昭雄医学博士(日本のお手玉の会顧問)が、平成14年に出版して30万部の売上を記録した『ゲーム脳の恐怖』(NHK生活人新書)で述べられていることを、裏付ける内容となっています。

森教授は、平成12年に出版した『ネットゲ脳、緊急事態～急増する「ネット&ゲーム依存」の正体～』(主婦と生活社)でも、同様の問題を指摘しています。さらに森教授は、「ゲームで崩れた脳は、お手玉をすることで改善できる」といっています。